

令和7年度 学生チャレンジプロジェクト 成果報告書

事業区分 学年・学部間交流の活性化

プロジェクト名 みんなでつくろう！共創の場プロジェクト

代表者 (所属・学年・氏名) 生活科学部 生活環境デザイン学科 4年 堀毛星来

責任教員名 (役職・氏名) 准教授 橋本雅好

予算総額 200千円

1. プロジェクトメンバー (氏名・学部・学年・役割)

堀毛星来 (生活環境デザイン学科・4年) プロジェクト進行の取りまとめ
鈴木彩心 (生活環境デザイン学科・4年) プロジェクト進行の取りまとめ
生活環境デザイン学科・4年有志 自主施工などの協力

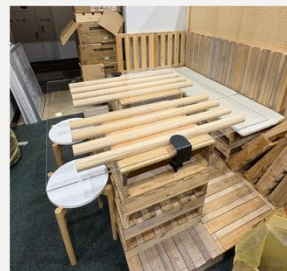
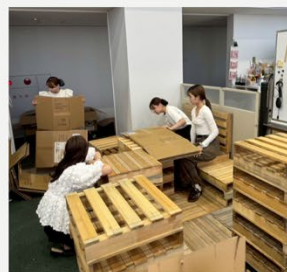
2. プロジェクト開始の背景・経緯や目的等

現在、生活科学部生活環境デザイン学科には、学年を超えた学生の交流の場がないので、橋本雅好研究室が利用している5階のスペースの一角に、学年を超えた学生の交流の場を準備して、学内・学外での実践的な活動やコンペなどにチャレンジするなど、授業以外でも積極的にデザイン活動に関わる学生の居場所を作ることを活動目的とする。

3. プロジェクトの成果及び達成状況

2025年5月から、空間の提案内容を検討し、9月より自主施工をおこない、別のプロジェクトで活用した木製パレットを再利用するなどして、橋本雅好研究室が利用している5階のスペースの一角に、共創の場を、2026年2月に完成させた。2026年3月には、後輩たちのコンペのエスキスをするなど、活用をスタートさせた。

作業のプロセス





自然と視線が交わる配置



会話・交流生まれる

4. 大学や地域・社会へ与えた影響

- ・自主施工のプロセスが対話を生み、アイデアが形になることを実感した。
- ・この場をきっかけに、他の研究室や後輩との交流も広がった。
- ・廃材の再活用を通して、価値を創り出す大切さを学んだ。
- ・成長し合える大学にするためには、気軽に交流できる場が重要だと感じた。

5. 今後の課題

- ・共創の場を後輩へ引き継ぎ、他学年交流の頻度を増やすこと。
- ・共創の場のアップデートを継続的にこなうこと。